



2010/06/01

SINCE 1980/11/30

鳥との出会い／はじめに焼鳥ありき

30th Anniversaries

私が育ったのは、福井・岐阜県境の山奥の村で、昭和20年代は、ある風景画家の「山村風景」そのもので、自然がいっぱいであった。そして自然とは生活の糧を入手するものであり、観賞したり守ったりするものではなかった。

春の山菜とりから始まって、秋のクリ・トチなど、山へ入れば多くの食糧が入手できるのだが、秋のツグミやアトリなどの野鳥が手に入った。鳥山(とりやま)といって、カスミ網をかけて猟をする所が村内に2ヶ所あった。そのうちの1ヶ所が実家の持ち山を貸している所だけだったので、毎年賃料のかわりとして大量のツグミが届けられた。焼鳥になっていることが多く、うまかったが、ときに羽毛のついたままのが届けられることがあった。羽おしりを子供も手伝わされることがあり、嫌であった。アトリの方がやわらかくて、子供に食べさせるには良いと聞いたことがあるが、アトリが届けられることは少なかった。ツグミは近所ではツムギと言っていたので、母達が「このときはつむぎの着物がいいね」などと言っているのを聞くと、何のことかわからなかった。

当時はツグミ猟も飲酒運転も違法ではなかったのか、近くの警察署の署長以下、大勢が一升瓶かかえて鳥山へ行き慰労会をしたという話を聞いたことがある。

食べ物の脱線を少々。鳥の他にツキノワグマも沢山いた。村人の2人に1人ぐらいは山でクマに出会った事があり、私も出会ったことがある。あまり大きくないが、間に檻という仕切りがないことは気持ちの良いものではない。ただ、木の実などが豊富だったためか、襲われたという話は聞いたことがない。よくクマの肉が届けられたが、牛肉の方がうまいと思った。ムジナとっていたアナグマはうまいと思ったが、他の人は臭くてまずいと言っていた。雪が降ると、家の周囲にウサギの足跡が沢山あり、多くいるはずであるが、家の近所では姿を見たことがなく食べた記憶もない。イノシシは豪雪地帯には多くないのか、見たとか食べたとか言う話は聞いたことがなかったが、あるとき5~6頭もとれたことがありニュースになった。ただ、地元では、そんな報道されたら嫁の来手がなくなるとして、報道機関に抗議したという話であった。

野鳥の会にふさわしくない話題ばかりですみません。どうも私には高尚な話より食欲の方が
・・・。

鳥と出会った人：飯田 忠嗣